

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番56	福山市立久松台小学校
最終更新日		2023年(令和5年)4月1日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、学校・教職員が自主性・自律性を発揮し「学校文化を変える仕組みをつくる」「子ども主体の学び」向かって自ら・ともに「鍛える」「支える」</p>
--

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>全国学力調査の結果、校区小学校は福山市の平均正答率を上回ったが、本校は下回る結果となった。また、長欠未然防止に向けて、現状や対策を話し合い、実践した。さらに、メディアウィークを設定することで、メディアとの付き合い方や利用の仕方について効果があった。</p>	<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力 他者とかわる力 社会貢献力 自己形成力</p> <p>自ら考え、判断し、行動できる自律した児童・生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 校区合同研修における、合意形成を意識した授業研究及び教科等部会の取組 DC教育を基に、ICTを活用した個別最適化した授業実践及び協議・交流の取組 家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組
---	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>未来を切り拓く「生きる力」を育成する 「すべては子どもたちのために」を基底に据え、学校・保護者・地域が連携し、「この学校へ来てよかった」「この学校へ来てさせてよかった」といわれる学校に</p>	<p>育成する力 21世紀型“スキル&倫理観”</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>思考力・判断力・表現力 Ⓔ</p> <p>他者とかわる力 Ⓕ</p> <p>自己効力感 Ⓖ</p>	<p>自分の考えや経験を基に自己決定したり、じっくり内省したりして、自律に向かうことができる。</p> <p>受容的で率直な対話を通して、互いの考えの共通点を見つけたり、新たな気づきを得たりすることができる。</p> <p>自分の良さを認め、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しようとしている。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>自ら考え 正しく判断し 行動する 感性豊かな子</p>	<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>自分で決めて、やってみて、考える ～自律を促す学びの創造～</p> <p>内容等</p> <p>大切にしたいこと ①児童が、自分がどうしたいかを基準に、やってみること ②児童が、どんな結果でも、そこから前向きに学びを見出し、次につなげること 「自分がどうしたいか」で学び方や表し方を決めたり、「うまくいったか」ではなく「自分は何を学べたか」を振り返ったりできる授業づくりについて、研究を行う。</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>Ⓔ 自分で決めて、やってみて、考える機会を保障した授業 Ⓕ 児童が、自己決定したり、じっくり内省したりする授業 教師が、児童の実態からの確なファシリテートをする授業 Ⓖ 受容的で率直な対話を通して、新たな気づきが得られる授業 課題に対して自己決定や自己選択することができ、子ども達が進んで挑戦できる授業</p>	
<p>現状</p> <p><テストで測れる学力> (全国学力・学習状況調査等の結果より) 【○成果 ●課題】 ○全国学力・学習状況調査の「国語・算数」では全国平均・県平均を上回り、基礎的・基本的な学力はおおむね定着している。また、無回答率が低かった。 ○授業づくりで、友達との対話や図化などの意見を説明し合う場面を多くしたことで、児童が「分かったつもり」に気付けるようになった。 ●自分の意見をもち、読み手が納得するような根拠を立てて論じる力が弱い。 ●書く際に、読み手の立場に立って、自分の意見を論理的に述べる力が弱い。</p> <p><非認知能力> (2022年度末に職員で分析した児童の実態より) 【○自律に向かっている姿 ●自律から遠ざかっている姿】 ○色々な場面で、自分の考えをもてており、それを表現しようとしている。 ○友達の意見等に触れて、柔軟に意見を変えられる児童が多い。 ●周りがどう評価するかで行動を決めがちである。(自己決定しきれない) ●学習経験が「うまくいったかどうか」で振り返りがちである。どんな結果でも学びを見出し、次につなげる力がまだ弱い。</p>			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立久松台小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
3	自ら考え学 ぶ児童(主体 性)の育成	★	継続	自己決定して行 動し、そこから 前向きに学びを 見出す、自律し た児童の育成	児童が、「自分 で決めた」「こ の学びがあっ た」と自覚でき る授業づくりを する。	『やってみよ う』と考え行動 し、その後「じ っくり振り返っ ている」と答え る児童の割合 を、各学級年度 当初より15ポ イント以上増や す。								
			継続	自分の良さに気 付き、自信をも って物事に挑戦 できるととも に、思いやりを もって相手と関 わることができ る児童の育成	友達の良さに気 付き、伝え合う 取組を行う。た てわり掃除等、 異学年交流を実 施し、他者と関 わる場を設定す る。教職員間で 学級経営につい て交流し合う研 修を実施する。	QUアンケートの学 級生活満足群に属 する児童(非承認 感や被害感が少 ない児童)を75% 以上にする。								
			継続	体を動かすこと が楽しいと思え る児童の育成	授業や休憩時間 にサーキット運 動に取り組める ようにする。ま た、委員会活動 や家庭学習を通 じて運動に親し む機会を設け、 自分の体力や運 動に関心をもて るようにする。	外遊びやサーキ ット運動への自 主的な参加率を 、各学級年度 当初より10ポ イント以上増や す。児童アンケ ートで「運動が 好き」と答え る肯定的割合を 95%以上にす る。								
3	教職員の資 質・能力の向 上	★	継続	子どもたちの自 律を促す授業の 創造	教職員が、「自 律を促す授業づ くり」に取り組 むヒントを得ら れる研究授業や 職員研修を計 画、実施する。	研究授業毎に、教 職員に「前回の研 究授業で得た学 びを基に、どのよ うな取組をしま したか」というア ンケートを実施 する。肯定的割 合を、90%以 上にする。								

3	地域に貢献する学校	継続	持続可能な社会について探究し、地域に還元する児童の育成(SDGs)	生活科の学習や総合的な学習の時間に、地域に根づいた持続可能な社会づくりについて学び、実践をする。	児童アンケート「持続可能な社会づくりのために自分達ができる事に取り組んでいる」に対する肯定的割合を80%以上にする。									
---	-----------	----	-----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。